平成 23 年 2 月 14 日

各　　位

会 社 名　中 央 化 学 株 式 会 社
代表者名　代表取締役社長執行役員　宇 川　進
（ＪＡＳＤＡＱ・コード７８９５）
問合せ先
役職･氏名　取締役常務執行役員管理本部長　森本 和宣
電　　話　０４８－５４０－２６２４

特別利益と特別損失の計上および平成 22 年 12 月期通期業績予想との差異に関するお知らせ

当社は、平成 22 年 12 月期において特別利益および特別損失を計上するとともに、平成 22 年 8 月 9 日に公表いたしました平成 22 年 12 月期通期（平成 22 年 1 月 1 日～平成 22 年 12 月 31 日）の業績予想と、本日公表いたしました平成 22 年 12 月期業績実績に差異が生じましたので、その概要を下記の通りお知らせいたします。

記

1．特別利益の計上およびその内容

海外事業等再編引当金戻入額	433 百万円（連結）
貸倒引当金戻入額	162 百万円（連結）
固定資産売却益	144 百万円（連結）

当社は急成長が見込まれる中国での事業展開にあたり、不採算取引の是正縮小や工場設備改廃など、事業再編に伴う費用や損失の発生に備え、会計上、平成 20 年 12 月期に 257 百万円、平成 21 年 12 月期に 413 百万円の海外事業等再編引当金繰入等をおこなってまいりました。

その事業再編の一環として、平成 21 年 10 月から実施いたしました重慶中央化学有限公司の清算においては、同公司の債権回収と清算費用抑制等に努めた結果、平成 22 年 12 月期において貸倒引当金戻入額 103 百万円と固定資産売却益 118 百万円が発生いたしました(平成 22 年 7 月 30 日付け公表「子会社の清算に伴う特別利益の計上に関するお知らせ」ご参照)。

また、事業継続しております他の中国子会社においても、販売活動の強化・債権回収の強化、製造原価の低減等を強力に推進し、加えて中国における食品包装容器市場の拡大と“安全・安心な食品容器”を提供するメーカーとしての認知度が向上し、高付加価値製品の需要増に繋がった結果、業績は大きく改善し、海外事業再編費用の一部については発生が見込まれない状況となりましたため、平成 22 年 12 月期において海外事業等再編引当金戻入額 433 百万円と貸倒引当金戻入額 52 百万円が発生することとなりました。

これらに個別単体で発生いたしました貸倒引当金戻入額 7 百万円･固定資産売却益 25 百万円が加わり、連結損益計算書において、海外事業等再編引当金戻入額 433 百万円・貸倒引当金戻入額 162 百万円・固定資産売却益 144 百万円を計上することとなりました。

2．特別損失の計上およびその内容

為替換算調整勘定取崩損 858 百万円（連結）

当社の連結子会社のうち、米国デラウェア州に所在する Central Packaging Corp.(以下、CPC 社)については、平成 21 年 11 月に同社が保有しておりました連結孫会社 C&M Fine Pack, Inc. の株式譲渡をおこないました(平成 21 年 11 月 16 日付け公表「孫会社の異動(株式譲渡)完了に関するお知らせ」ご参照)。

当該株式譲渡と譲渡後 1 年間の保証期間を終え、当社グループにおける CPC 社の事業的役割(米国事業における持株会社)が薄れたことや、当面の為替水準等を考慮した場合に、連結財務諸表で計上しております CPC 社純資産の為替換算による目減り額(為替換算調整勘定) 924 百万円については、その損失実現の可能性が極めて高いと判断し、平成 22 年 12 月期において為替換算調整勘定取崩損 924 百万円を計上することとなりました。

（連結財務諸表上は、CPC 社の純資産に係る為替換算調整勘定の取崩損のほかに、重慶中央化学有限公司清算によって実現した同公司の純資産に係る為替換算調整勘定の取崩益 66 百万円との損益合算額 858 百万円が取崩損として表示）

３．通期業績予想との差異

（１）平成 22 年 12 月期 連結 業績予想数値との差異（平成 22 年 1 月 1 日～平成 22 年 12 月 31 日）

（単位：百万円）

	売　上　高	営 業 利 益	経 常 利 益	当 期 純 利 益	1株当たり当期純利益
前回発表予想（A） （平成22年8月9日）	65,800	2,900	2,200	1,700	円　銭 84.37
今回実績　　（B）	64,699	3,129	2,391	1,961	97.33
増 減 額（B－A）	△ 1,101	229	191	261	－
増 減 率	△ 1.7%	7.9%	8.7%	15.4%	－
（ご参考）前年実績 （平成21年12月期）	75,576	4,096	3,016	△2,861	△156.99

（２）平成 22 年 12 月期 個別 業績予想数値との差異（平成 22 年 1 月 1 日～平成 22 年 12 月 31 日）

（単位：百万円）

	売　上　高	営 業 利 益	経 常 利 益	当 期 純 利 益	1株当たり当期純利益
前回発表予想（A） （平成22年8月9日）	61,400	2,700	2,100	1,400	円　銭 69.48
今回実績　　（B）	59,867	2,549	2,046	2,502	124.19
増 減 額（B－A）	△ 1,533	△　151	△　54	1,102	－
増 減 率	△ 2.5%	△5.6%	△2.6%	70.0%	－
（ご参考）前年実績 （平成21年12月期）	61,759	3,201	2,356	△4,701	△257.98

差異が生じた理由

日本を中心とする個別業績は、食料品の末端消費者の節約志向を反映し、売上高は予想に対し 2.5%の未達となりましたが、在庫水準の圧縮による保管料削減や人件費削減等を進めた結果、個別の経常利益は、ほぼ予想通りとなりました。なお、個別における当期純利益は、上記１に記載しました特別利益が個別でも計上となったことや、税務上の繰越欠損金の消化により会計上税金負担が減少したことなどから、前回発表予想 1,400 百万円に対し実績は 2,502 百万円となりました。

連結の経常利益は、個別の予算数値未達分を中国子会社業績が吸収し、前回発表予想 2,200 百万円を 191 百万円上回り 2,391 百万円となりました。なお、連結の当期純利益については、単体業績での当期純利益予想超過分 1,102 百万円が、上記２に記載しました為替換算調整勘定取崩損 858 百万円等で減殺され、前回発表予想 1,700 百万円に対し実績は 1,961 百万円となりました。

以　　上